

令和4年度秋学期授業アンケート結果について

【講評】

講評およびデータにおいては西暦表記とさせていただきます。2022年度秋学期は、すべての授業を対面で実施することが出来ました。しかしながら、授業アンケートへの回答率は前学期に比べ顕著な低下がみられました(回答率:2022年度秋 24.26%、2022年度春 29.54%、2021年度秋 25.62%、2021年度春 26.32%、2020年度秋 23.68%、2020年度春 30.31%、2019年度秋 55.95%、2019年度春 60.64%)。回答率が50%以上の科目は、実施対象科目451科目のうち42科目と前学期から急減しました(2022年度春 439科目中73科目、2021年度秋 449科目中43科目、2021年度春 439科目中47科目、2020年度秋 436科目中27科目、2020年度春 398科目中32科目)。学生コメントの件数も大きく減少しこの4年間で最小となっています(学生コメント:2022年度秋 825件、2022年度春 1,105件、2021年度秋 964件、2021年度春 1,176件、2020年度秋 1,052件、2020年度春 1,629件、2019年度秋 1,480件、2019年度春 2,546件)。

アンケート実施科目全体の数値は、ほぼすべての項目が2期連続の低下傾向にあります。その中であって改善希望の割合は20.0%で、前学期に続き低い水準にあります(2022年度春 20.1%、2021年度秋 20.2%、2021年度春 22.4%、2020年度秋 22.1%、2020年度春 28.9%、2019年度秋 23.4%、2019年度春 39.7%)。

本アンケートの結果は学生の生の声が集約されたものです。先生方には、結果を十分吟味検討し、わかりやすく学生の満足度の高い授業の実現へ役立てていただくことを切に望みます。今回の授業満足度が低評価となった科目においては、授業改善を早急に行ってください。

※ 今学期は全ての授業を対面で実施したため、アンケート項目は遠隔講義移行前の2019年度の内容としました。13の質問項目のうち、授業の内容、技術に関する問9までの項目を抽出し、次ページ以降に教養教育科目や専門科目など9つのグループに分類し、前年同期(2021年度秋学期)と比較できるように掲載しました。

質問項目

- 問1 授業の到達目標(テーマや目的)は毎回明確に示されていましたか。
- 問2 授業内容は理解しやすい適切なレベルでしたか。
- 問3 授業は学生の理解度や学修の進捗度を確かめながら進められていましたか。
- 問4 教員の声や話し方は聞き取りやすかったと思いますか。
- 問5 教員は教えることに熱意・情熱を持って授業に取り組んでいましたか。
- 問6 教員は授業を妨害する私語や途中退室などに適切な処置を取っていましたか。
- 問7 教員は学生へフィードバック(質問への応答あるいはレポートその他の課題などの解説など)に努めていたと思いますか。
- 問8 この授業から学習への刺激や触発を受けることが多かったと思いますか。
- 問9 この授業を受けて満足しましたか。
- 問10 あなたがこの授業に出席した比率は、およそ何%ですか。なお、ここでいう「出席」とは、遅刻・早退しなかった場合のみを指します。
- 問11 あなたはこの授業1回に対して、予習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか。
- 問12 問11で「1. 全くしてない」以外を選択した方のみお答えください。あなたは予習や復習をどこで行いましたか。
- 問13 教員は授業開始時間を守っていましたか。

◆ アンケート実施科目全体の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 451 科目	18,424	4,470	24.26	4.23	4.12	4.09	4.20	4.23	4.07	4.16	4.02	4.13
2021 秋 449 科目	19,779	5,068	25.62	4.27	4.18	4.15	4.22	4.25	4.24	4.19	4.04	4.15
2020 秋 436 科目	19,642	4,651	23.68	4.31	4.18	4.16	4.24	4.28	4.28	4.21	4.05	4.16

2021 年度に教育課程（カリキュラム）が改定され新旧カリキュラムが並行実施されているということもあり、開講科目数及びアンケート実施科目数が増えています。そうしたなかで今学期のアンケート実施科目全体の数値は、全ての項目で前年同学期より低下しました。

1. 共通教育科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 51 科目	4,283	972	22.69	4.28 (4.23)	4.14 (4.12)	4.09 (4.09)	4.22 (4.20)	4.20 (4.23)	4.06 (4.07)	4.14 (4.16)	4.01 (4.02)	4.11 (4.13)
2021 秋 50 科目	4,917	1,137	23.12	4.27 (4.27)	4.15 (4.18)	4.12 (4.15)	4.20 (4.22)	4.22 (4.25)	4.23 (4.24)	4.16 (4.19)	3.98 (4.04)	4.10 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

全学部共通の共通教育科目（語学、実習科目を除く）の各項目の数値は、全体の平均と比べ、若干低い数値となっていますが、昨年度に比べると授業満足度(Q9)など多くの項目がほぼ同水準の結果となりました。

そうしたなかで、他の科目群にも見られますが、私語や途中退室などに適切な処置を取っていかを問う Q6 のマイナス 0.17 ポイントの落ち込みが目をつけます。本科目群には大人数クラスの科目も多く担当する先生方のご負担も大きいと思いますが、快適な受講環境の維持にご協力をお願いいたします。

また、来年度以降においては、文科省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請に向けた取り組みが本格化していきます。また、現在の高校一年生から情報科目が高校の授業において必修となり、3 年後には高校で情報科目を履修した学生が入学してきます。そのため、情報系に関わる科目（これらの科目のみでなく、より広く倫理学あるいは専門科目における情報系に関係している科目）との連携についても考えていくことが望まれます。

2. 外国語科目（英語必修科目）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 47 科目	1,148	250	21.78	4.10 (4.23)	4.12 (4.12)	4.09 (4.09)	4.16 (4.20)	4.28 (4.23)	4.02 (4.07)	4.11 (4.16)	3.96 (4.02)	4.10 (4.13)
2021 秋 46 科目	1,238	260	21.00	4.06 (4.27)	4.06 (4.18)	4.07 (4.15)	4.18 (4.22)	4.25 (4.25)	4.20 (4.24)	4.13 (4.19)	3.90 (4.04)	4.06 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

2021年度の教育課程（カリキュラム）の改定により、1年次の開設科目数及び開講科目数が大幅に増えました。語学系科目は少人数で行われていることもあり、回答率がほとんどの科目で低くなっております。そのためアンケートの結果を鵜呑みにすることはできませんが、必修の英語科目においては、ネイティブスピーカーによる授業の数値が日本人教員による授業のものよりも低い傾向にあり、本学の学生が英語のどのあたりを苦手としているか（すなわちリスニングとスピーキング）が反映されているようにも思われます。

3. 外国語科目（選択科目）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 22 科目	617	176	28.53	4.30 (4.23)	4.26 (4.12)	4.29 (4.09)	4.35 (4.20)	4.40 (4.23)	4.18 (4.07)	4.34 (4.16)	4.21 (4.02)	4.33 (4.13)
2021 秋 24 科目	732	179	24.45	4.21 (4.27)	4.27 (4.18)	4.26 (4.15)	4.25 (4.22)	4.35 (4.25)	4.22 (4.24)	4.19 (4.19)	4.06 (4.04)	4.22 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

全学部共通の外国語の選択科目については、回答率がほとんどの科目で低くなっております。アンケートの結果を鵜呑みにすることはできませんが、新カリキュラムの科目は、必修の英語に比べて数値が高い傾向にあります。また英語以外の言語の科目の多くにおいて、高い授業満足度を獲得しています。これは先生方の授業改善の効果が表れたことがその要因として挙げられるかと思われまます。

4. 留学生科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 3 科目	48	12	25.00	4.25 (4.23)	4.33 (4.12)	4.25 (4.09)	4.50 (4.20)	4.50 (4.23)	3.83 (4.07)	4.50 (4.16)	4.41 (4.02)	4.41 (4.13)
2021 秋 3 科目	56	20	35.71	4.35 (4.27)	4.25 (4.18)	4.25 (4.15)	4.20 (4.22)	4.20 (4.25)	4.25 (4.24)	4.35 (4.19)	4.10 (4.04)	4.20 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

留学生科目は、6項目が前年同期にくらべ改善し、授業満足度も前年同期に比べ0.21ポイントと大きく上昇しています。全体の平均と比べると全般的に高い数値となっていますが、そのなかにあつて私語や途中退室への注意を示すQ6の落ち込みが目立ちます。

5. 法学部専門科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 37 科目	2,866	697	24.32	4.30 (4.23)	4.05 (4.12)	3.99 (4.09)	4.16 (4.20)	4.27 (4.23)	4.10 (4.07)	4.18 (4.16)	3.96 (4.02)	4.06 (4.13)
2021 秋 35 科目	2,706	558	20.62	4.39 (4.27)	4.22 (4.18)	4.15 (4.15)	4.23 (4.22)	4.31 (4.25)	4.31 (4.24)	4.21 (4.19)	4.07 (4.04)	4.18 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

法学部の専門科目は、回答率が低いものの、全ての項目が全体平均よりも高い数値となつてお

ります。授業満足度だけではなく、授業内容のレベルの適切さを問う設問（Q2）や、授業運営に関する設問（Q3～7）においても好評価を得た授業が多く、先生方の授業改善の成果が数値となって表れているように思われます。

6. 現代ビジネス学部専門科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 83 科目	6,230	1,582	25.39	4.11 (4.23)	4.04 (4.12)	4.01 (4.09)	4.09 (4.20)	4.14 (4.23)	4.00 (4.07)	4.08 (4.16)	3.95 (4.02)	4.07 (4.13)
2021 秋 85 科目	6,217	1,752	28.18	4.25 (4.27)	4.13 (4.18)	4.11 (4.15)	4.16 (4.22)	4.19 (4.25)	4.20 (4.24)	4.16 (4.19)	4.00 (4.04)	4.10 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

現代ビジネス学部の専門科目においては、回答率および全項目ともに前年同学期から低下しました。授業形式や難易度に関する自由記入欄への回答では、同じ授業においても受講者により賛否が分かれていることが多く見受けられますが、地域経済学科においては学生の学力差に大きな開きがあるためこの傾向が強く、受講生全員を満足させる授業の実現の難しさを痛感させるものとなっています。また、より専門性の高い科目になるほど授業満足度が下がっていく傾向にあるようにも思われます。もちろん授業改善の余地はあるものの、カリキュラムが機能していることの現れともいえるでしょう。この点につきましては、今後も検証していきたいと思えます。

7. 資格科目（スポーツ指導員科目・教職課程・図書館学課程）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 29 科目	417	93	22.30	4.31 (4.23)	4.26 (4.12)	4.20 (4.09)	4.30 (4.20)	4.31 (4.23)	3.97 (4.07)	4.30 (4.16)	4.17 (4.02)	4.21 (4.13)
2021 秋 31 科目	1,186	431	36.34	4.24 (4.27)	4.20 (4.18)	4.12 (4.15)	4.20 (4.22)	4.20 (4.25)	4.23 (4.24)	4.13 (4.19)	4.06 (4.04)	4.19 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

2021年度の教育課程（カリキュラム）の改定により、スポーツ指導員科目の一部が資格科目から地域経済学科のコース科目群に移動したため、アンケート対象科目数が減少しました。また、資格科目においては回答者が非常に少ない科目が多く、各項目の数値について前年同学期と比較してその高低を述べるのは避けたいと思えます。

8. 実習科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 12 科目	397	88	22.17	4.39 (4.23)	4.19 (4.12)	4.15 (4.09)	4.27 (4.20)	4.37 (4.23)	4.22 (4.07)	4.27 (4.16)	4.26 (4.02)	4.21 (4.13)
2021 秋 6 科目	192	45	23.44	3.95 (4.27)	4.06 (4.18)	3.91 (4.15)	4.08 (4.22)	4.13 (4.25)	3.93 (4.24)	3.93 (4.19)	4.02 (4.04)	4.13 (4.15)

※（ ）内はアンケート全体の数値

実習科目については本学期では行動規制がほぼ撤廃されたことから国内の実習を従前どおり

実施し、海外実習についても一部を再開しました。学外での学びについては概ね高い評価を得ています。国内での実習についても好評で、学外での様々な学びや経験が再び行えるようになったこと、そしてその再開に奔走された先生方の骨折りと健闘の成果といえるのではないかと思います。

9. 演習科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2022 秋 167 科目	2,418	600	24.81	4.36 (4.23)	4.36 (4.12)	4.34 (4.09)	4.43 (4.20)	4.35 (4.23)	4.23 (4.07)	4.34 (4.16)	4.22 (4.02)	4.35 (4.13)
2021 秋 169 科目	2,535	686	27.06	4.37 (4.27)	4.34 (4.18)	4.34 (4.15)	4.42 (4.22)	4.40 (4.25)	4.32 (4.24)	4.38 (4.19)	4.23 (4.04)	4.36 (4.15)

※ () 内はアンケート全体の数値

演習科目の回答は、例年全体平均と比較して全ての項目で数値が高く、昨年度と同様の数値となっています。一方で、各科目の回答率に大きなばらつきが見られます。特に、3、4年次配当科目の回答率向上が課題といえます。また、回答者が誰もいないゼミもありました。毎回のことではありますが、これらの点の改善は継続的な課題となっており、個々の先生というより学部・学科で対応すべきものではないかと思われます。

10. 学修時間及び学修行動について

問 10. あなたがこの授業に出席した比率は、およそ何%ですか。なお、ここでいう「出席」とは、遅刻・早退しなかった場合を指します（2020 年度～2022 年度春学期：対面型・同時双方向型授業以外では期限内に課題を提出した場合を指します）。

	20% 以下	40% 程度	60% 程度	80% 程度	ほぼ 100%
2018 春	0.9 %	1.2 %	13.9 %	33.7 %	50.3 %
2018 秋	1.4 %	1.5 %	17.9 %	36.4 %	42.8 %
2019 春	1.0 %	1.5 %	17.0 %	34.6 %	45.9 %
2019 秋	1.1 %	1.6 %	20.1 %	36.6 %	40.7 %
2020 春	0.4 %	0.8 %	5.7 %	21.1 %	71.9 %
2020 秋	1.1 %	1.1 %	7.2 %	29.0 %	61.6 %
2021 春	0.8 %	1.1 %	9.4 %	28.9 %	59.9 %
2021 秋	0.9 %	0.8 %	11.9 %	33.7 %	52.7 %
2022 春	1.2 %	1.4 %	11.9 %	32.5 %	53.0 %
2022 秋	1.0 %	1.1 %	12.2 %	35.9 %	49.8 %

(全体に対する回答者の割合)

遠隔講義移行前の 2018・2019 年度に比べると、遠隔講義期は高出席率の割合が高くなっています。ただし、遠隔講義に移行した 2020 年度春学期以降で見ると、ほぼ 100%という学生は減少傾向にあり、代わりに 80%程度、60%程度の学生の比率が徐々に増加傾向にありました。全授

業が対面講義に戻った今学期も同様の傾向が見られます。

オンデマンド型の遠隔授業の場合、学生が自分の体調や都合に合わせて受講できることで高い出席率を維持しやすかったのかもしれませんが、対面授業が増えていく中で、定刻に大学に来て授業に出席するという受講スタイルの変化に対応できず欠席しがちになっていった学生が多いように思われます。また、前回までの講評でも述べましたが、出席率の上昇傾向については、進級要件が厳格化されたことも一要因とも考えられます。

問 11. あなたはこの授業 1 回に対して、予習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか。

	全くして いない	30分 程度	1時間 程度	2時間 程度	3時間 以上	平均 (分)	学修したと回答した学生の 平均 (分)
2016 春	61.0 %	22.4 %	9.8 %	3.0 %	3.8 %	23.09 分	59.20 分
2016 秋	63.3 %	20.1 %	10.4 %	2.6 %	3.7 %	21.99 分	59.87 分
2017 春	56.9 %	24.8 %	10.7 %	3.9 %	3.7 %	25.22 分	58.47 分
2017 秋	55.6 %	24.6 %	11.5 %	4.2 %	4.1 %	26.61 分	59.99 分
2018 春	48.8 %	28.7 %	12.5 %	4.3 %	5.6 %	31.45 分	61.47 分
2018 秋	53.4 %	25.8 %	12.3 %	4.2 %	4.4 %	27.98 分	59.99 分
2019 春	52.4 %	28.2 %	11.7 %	3.9 %	3.7 %	26.88 分	56.54 分
2019 秋	56.2 %	26.0 %	11.4 %	3.5 %	2.9 %	24.04 分	54.94 分
2020 春	26.1 %	38.8 %	25.5 %	6.8 %	2.8 %	40.15 分	54.33 分
2020 秋	26.6 %	40.8 %	23.5 %	5.9 %	3.1 %	39.02 分	53.20 分
2021 春	29.5 %	41.5 %	22.5 %	4.4 %	2.1 %	35.02 分	49.68 分
2021 秋	30.2 %	38.8 %	23.8 %	5.1 %	2.1 %	35.85 分	51.35 分
2022 春	31.5 %	39.8 %	20.8 %	5.3 %	2.6 %	35.49 分	51.77 分
2022 秋	39.5 %	38.2 %	16.5 %	3.6 %	2.1 %	29.57 分	48.88 分

(全体に対する回答者の割合)

以前の講評でも述べましたが、事前準備や復習を「全くしていない」と回答する学生の割合については、遠隔講義移行の 2020 年度の春学期を起点に低位傾向が続いていましたが、今学期は前学期に比べプラス 8 ポイントと大幅に上昇しました。前学期までの傾向は遠隔授業において毎回課題が課されることによるものが大きかったと思われそうですが、それが対面授業にも波及している可能性があります。とはいえ、今学期の平均学修時間は減少しています。

また、学修したと回答した学生の今学期の平均値は 48.88 分と、遠隔授業以降前と比べても最も低い値となっています。事前・事後学習それぞれ 90 分 (合計 180 分) にも程遠く、学生に学習習慣を付けさせる取り組みが重要となっているといえるでしょう。

問 12. 問 11 で「全くしていない」以外を選択した方のみお答えください。あなたは予習や復習をどこで行いましたか。

	自宅	大学 図書館	基礎教育セン ター	その他 学内施設	学外の 施設
2016 春	66.2 %	10.1 %	5.1 %	8.7 %	9.9 %
2016 秋	66.8 %	10.3 %	7.1 %	7.3 %	8.4 %
2017 春	67.5 %	11.6 %	4.3 %	8.2 %	8.4 %
2017 秋	66.5 %	11.3 %	4.8 %	9.6 %	7.8 %
2018 春	69.6 %	12.3 %	2.0 %	6.7 %	9.4 %
2018 秋	65.9 %	13.3 %	3.3 %	9.0 %	8.5 %
2019 春	70.1 %	12.1 %	3.7 %	6.8 %	7.3 %
2019 秋	69.5 %	12.3 %	3.4 %	8.6 %	6.1 %
2022 秋	82.6 %	6.0 %	2.6 %	5.5 %	3.3 %

(全体に対する回答者の割合)

本項目においては遠隔講義実施期間は省き 2019 年度秋学期以前の回答結果との比較を行います。自宅での学習との回答割合がコロナ禍前では 70%前後だったのに対し今学期は 80%を超えきわめて高い一方で、大学図書館ほかの学内施設の割合は軒並み低くなっております。

以 上